

昭和23年(1948年)

新制益田高校の誕生

戦後の学制改革によって、益田農林高校はその役割を終え、新たに
岐阜県立益田高等学校が誕生しました。

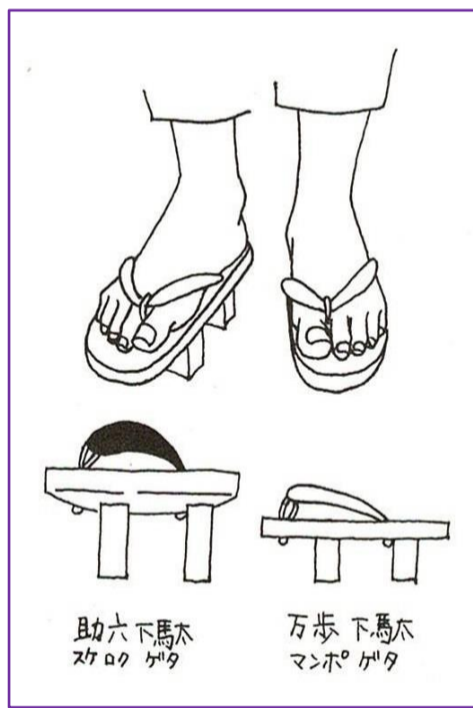
終戦から戦後へ

昭和20年の終戦後、アメリカ教育使節団により現在の各学校在籍年数 六・三・三・四 年制に変更。益田高校は普通科と農業科の課程が設置され、定時制課程(夜間)も併置(し普通科・農業科・家庭科)されました。新学制が始まると同時に、共学制にもなりました。しかし、急な改革だったため人数は揃っていましたが制服などもなく、当初は統一性がありませんでした。服装のほかに靴もバラバラで女子は今も履くような運動靴でしたが、男子は下駄を履く生徒がまだ多くいたようです。



名称変更当初の生徒の服装のばらつき

変更当初はまだ制服などが制定されておらず、戦後の物資の不足もあって服装や靴などはまだそろっていませんでした。左図は多くの男子生徒が使用していた履き物です。



男女共学・総合制・小学区制

父の職業の関係で、旧制中学新制高校の六年間に四回も転校するはめになった。新制高校三年になっての九月、私は益高生になった。私達の時代を振り返る時、六三制は別にしても、小学区制や男女共学など、あの学生改革抜きには考えられないと思う。考えてみれば、当時は異質の要素が雑然と混在し、そこに学ぶ人達の土性骨をしっかりと育てるような土壌は全く存在していなかったように思える。

田口恒司「広報しました」平成6年抜粋

新制高校校章の制定

生徒賛歌は私の益高在職中に、二人、三人の先生がそれぞれに作詞して、学生の投票で採用を定めることになり、私もその一人に加わって歌詩を作りましたが、その私のまずしい作が選ばれた

ものです。そして音楽の先生と協力して作曲したものです。

この詩は、萩原在住当時の私の心境を素直にうたっただけのことですが、それが生徒の共感を呼んだものと考えております。

また、校章を新しくする案が生徒会から提出され、職員会で私に校章の図案を作るように命ぜられました。以前の益田農林の校章は、諏訪神社の紋章とも、また桑の葉を図案したものともいわれていました。一部にはそれを変更する必要がないという意見もあったようですが、結局は新しい益高の出発にふさわしく変更することに踏み切り、私の描いた五案ほどの図案の中から、全校生徒の投票で決定したものが、現在益田高校で使用されている校章です。

図案は、アルファベット「M」「H」「S」(Mashita High School)の組み合わせで、リズムカルな線で、シンメトリカルな形を幾分破った統一のうち、躍動と飛躍を象徴したつもりであります。

中田満雄「益高五十年」より抜粋

益田高校の校章とクラスバッジ。校章は学生帽に使用されました。現代の私たちがから見ても、とても素敵なデザインですね。



女子生徒用バッジ



クラスバッジ

